

〔金石萃編一百五十七〕圓覺禪院鐘款

按圓覺禪院今名圓覺寺在韓城縣北門外○中此鐘○金承安四年所鑄○周刻僧名及助緣男女姓名二百餘人今俱不錄○中又有書李氏者二人長當卽錢字俗書省文已見於此併識之

〔南浦文集上〕修葺石體宮文

正八幡大菩薩靈廟良方有石體石體有四句刻文○中妙文出現之後營一社於石體上○中歷數十星霜風雨壞簷隙矣是可忍乎今執行大宮司助長行以扣村々民家之門欲受溢米半錢之樂施以修葺簷隙矣有司奏之於龍伯義○島津尊君尊君平日瞻之仰之者不爲淺矣况復感執行助長之志也施數萬文以爲助緣

〔大内家壁畫〕金銀兩目御定法之事

こがねしろかねの兩目之事は京都の大法として何れも一兩四文半錢にて二兩九文目たる處、こがねをば一兩五分にうりかふ事、そのいはれなし殊に御分國中如此云々代はたかくもやすくも其身々のはからひたるべし兩目の事は京都の法をまもるべし若此旨を背やからあらば絶上裁罪科有べし自然又此沙汰を破輩を聞出事あらば慥遂糺明其科不遁者重科にをこなはるべし仍下知如件

文明十六年五月日

〔元祿新編塵劫記三〕第十二金銀千枚を開立にしてつもる事

金千枚のおもさ四十四貫目有是を百七十五分にてわれば一寸四方の坪二百五十一坪四分二厘八毛五絲七忽一となる

〔早算法〕くり綿金壹分ニ付何程と問定法の六九七五を實として拾駄の代金を以割ば何百何十目ご知る

參河守重行判